

ステラのしっぽ

いつき

やわらかい草が一面にしげった草原に、ステゴサウルスのおれがおりました。ステゴサウルスは四本足で歩きようりゆうです。頭は小さいけれど、大きなせなかにはたくさん板があり、しっぽにはとげがあります。そんなステゴサウルスたちが、みんなでなかよくくらししていました。

草原には、ステゴサウルスが生んだたまごがありました。たまごにひびが入ると、中の赤ちゃんは小さなしっぽをからにぶつけました。すると、たまごがわれて外に出てくることになりました。その赤ちゃんは、ステラと名づけられました。ステラには、同じお母さんのたまごから出てきた兄弟がおりました。ステラたちは、いつもいっしょにすごしていました。元気いっぱいの兄弟はじゃれあって遊ぶのがだいすきでした。しかし、時にはけんかすることもありました。

その日も、ステラはお兄さんとけんかをしました。ステラがしっぽをふりまわしてぶつ

けると、とげがあたります。だから、お兄さんは「いたい」と言っただけで逃げました。

「やった。ぼくが一番、強いんだ」

ステラは、とくになりました。でも、お

母さんはステラの頭を口でこきました。

「こら、ステラ。しっぽは、そんなことに使う

のではありません」

「それじゃあ、どうやって使うの？」

ステラがたずねると、お母さんはやさしい

目をして言いました。

「わたしたちのしっぽはね、大切なみんなを

守るために使うのよ」

「ふうん……」

ステラはお母さんのいうことを聞いて、兄

弟にはしっぽをぶつけないことにしました。

そんな、ある日のことでした。おなかをす

かせたティラノサウルスが、草原にやってき

ました。ティラノサウルスは肉食のきようり

ゆうで、ステゴサウルスを食べてしまします。

「やあ、うまそうな子どもたちだ」

ティラノサウルスがしたなめずりをすると、ステラたちはふるえあがりました。はじめて見る肉食のきようりゆうは、とてもおそろしい目をしていたのでした。

しかし、その時でした。ステラのお母さんたち、おとなのステゴサウルスが、子どもたちの前に立ちました。そして、ティラノサウルスに向かって、しっぽをふりまわしました。

「かわいい子どもには、手を出させないわ」

大きなしっぽのとげがあたりと、ティラノサウルスとはびあがりました。

「いてっ！ いてててて！」

ティラノサウルスは、ひとたまりもなくにげだしました。そして、みんなの草原は、おだやかで楽しい場所にもどりました。

こわいきようりゆうをおいはらったお母さんは、とてもかっこよくて、あたたかくて、たのしいと思いました。だから、ステラは「大切なみんなを守るために」しっぽをつかおうと、かたく決意したのでした。